

研 修 報 告 書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 会派名及び視察者名

会 派：青雲

視察者：川内賢幸

2 視察先・テーマ及び日時

「令和の地方自治のかたち」「議会と行政の関係性について」

◎令和 6 年 8 月 5 日（月） 14 時 00 分～15 時 00 分

研修先：千葉県千葉市 千葉市役所

研修内容：「令和の地方自治のかたち～議員・市長・知事の経験から若手議員に期待すること」
千葉県知事 熊谷 俊人 氏

◎令和 6 年 8 月 5 日（月） 15 時 10 分～16 時 20 分

研修先：千葉県千葉市 千葉市役所

研修内容：「若手議員出身首長によるトークセッション～議会と行政の関係性～」
習志野市長 宮本泰介 氏、香取市長 伊藤友則 氏、四街道市長 鈴木陽介 氏、
栄町長 橋本 浩 氏

3 研修の内容

講師の熊谷千葉県知事は、千葉市議、千葉市長を若くして経験された方であり、千葉市長時代には、総務委員会で視察に訪れたこともある。その際、全国に先駆けて自治体独自のアプリ「チバレポ」を導入して、道路補修の通報をはじめとする市民課題解決に取り組んでいたことを鮮明に覚えている。

今回は、これまでの経験から議会人としてどうあるべき、あってほしいかをご自身の経験を元に話をされた。令和の地方自治のかたちとして「議員は執行部ともっと話すべき」「少子化対策と子育て対策は別」「自治体がしっかりすることが重要」「企業誘致の失敗から学ぶべきことがある」といったワードは印象深いものだった。

また、若手議員出身首長によるトークセッションでは、議員と首長の違いを各首長がご自身の経験を元に話をされた。議員を経験したからこそその視点を、各首長が市政運営に取り入れており、「市民と行政、行政と議会の橋渡しをする役目」という言葉が印象的であった。

4 研修の感想

◎「令和の地方自治のかたち～議員・市長・知事の経験から若手議員に期待すること」 千葉県知事 熊谷 俊人 氏

千葉県の熊谷知事からは「令和の時代における地方自治のかたち」と題して講演を頂いた。議員個人としては、執行部とある程度の距離を保ちながら活動しているが、熊谷知事は「議員として執行部ともっと話すべき」ということ語られた。これは、議員活動を通じて何に取り組んでいるのか、こういったことを執行部ともっと話すべきということと捉えた。たしかに、適度な距離を保つことで前に進むこともあるが、執行部ともっと話すことで、双方の考え方や方向性を確認することもでき、より整理された提案ができるのではと思う。

もう一つ、人口減少対策として各自治体に取り組んでいる子育て政策についても、「少子化対策と子育て対策は別」という発言があった。これは、本市も含め多くの自治体と一緒に進めているのが実情ではないだろうか。熊谷知事は、例えば少子化対策であれば、未婚、晩婚対策を進めること。中でも、婚活事業については、いかにもな事業が溢れすぎて見えなくなっているとの発言があり、その対策として、婚活を謳わない自然な出会いの場が構築できる場を作るべきであるとの考えを述べられた。この点は、市役所の掲示板にいくつも貼られた婚活イベントのポスターを見て、私も感じていることであった。

また、子育て対策としては、やはり第1子後のフォローを自治体としていかにできるかということが求められているとの発言があった。これについては、2子、3子とつなげるためにも1子後のフォロー体制があれば、次に繋がる第一歩となるという単純な話ではあるが、自治体としてできているところがどの程度あるか。本市でももっとできることがあると感じている。

この他、本市も大々的に勧めている企業誘致について、「誘致に失敗した理由を、積み上げて、認識すること、そして改善を重ねていくことが重要」との言葉があり、本市の工業団地は成功しているように見えるが、その実、市外県外の本当にほしい企業誘致は成功しているのか、将来的なビジョンは合致しているか、妥協していないか、同じ業態ばかりが団地に来ていないか、色々見つめ直すときに来ているのではと感じた。

最後に、若手だからこそできる地方自治のかたち、20年後、30年後を生きる責任世代として、今は嫌われても、数十年後の市民に役立つ政策をすることが大事との話もあり、この点は、私自身出馬当初から述べてきたことであり、改めてしっかりと未来を見据えて行動していかなければならないと感じた。

◎「若手議員出身首長によるトークセッション～議会と行政の関係性～」

習志野市長 宮本泰介 氏、香取市長 伊藤友則 氏、四街道市長 鈴木陽介 氏、
栄町長 橋本 浩 氏

それぞれの首長が、議員の経験を活かしながら市政運営に取り組む中で、議員と執行部側との違いを中心にトークセッションが行われた。

熊谷知事からも語られたが、共通して触れられたのが「組織マネジメント」であった。それぞれが同じ立場である議会と違い、執行部側は市長をトップとして、多くの職員と意思疎通を図り、予算化、事業化を得て政策を実行していかねばならない。

政治力という点では、議員の経験を通じて身についても、組織運営は、そことは別の領域にあるということである。

語られた中で印象的だったのは、「議員が理解してほしいこと、市民が理解してほしいことを、わからない職員が多く、わかっていないことさえわからない状態がある」との言葉だった。

その理由として、8時間役所の中で勤務しており、当事者力に欠けるというのが語られ、そのつなぎ役として議員としての経験が役に立っているとのことだった。

この話は、熊谷知事が語った「議員と執行部はもっと語るべき」という発言にもつながる。議員と議会、執行部は、市民のため、まちのため、地域のためという基本理念は同じでありながら、何もかもスムーズに行くことは少ない。そこを繋いでいくのは、議員側の働きかけなのだと感じた。

また、議員出身の首長ということもあり、議会への情報共有などは丁寧に行っているとのことであり、経験が議会と執行部の関係づくりに役立っている事がわかった。

◎成果及び市政への反映

熊谷知事をはじめとする、議員経験者首長の話は、いずれも、議会と執行部双方の立場の違いから苦労している点も含めて、大いに共感できるものであった。

特に、「執行部ともっと話をしてほしい」という点は、今の自分におきかえると十分ではないような気がする。議員に寄せられている内容を、議会として昇華させて取り組んでいくのが本筋であるという考えが自分の中にはあるが、すべての事案について合意を得ることは難しいのが現状である。

その分、議員個人としてであれば、執行部側の考えも話し合いの中で共有、議論することもでき、必要なことだと感じた。

一方で、「執行部の掲げる数値目標は低い」との話もあり、これは総合計画、総合戦略などで感じていた点である。高い目標を掲げれば、未達のときに指摘を受ける。

しかしながら、本当に市民に求められているゴールがそこであれば、あえて高い目標を設定し、執行部だけで行おうとせず、議会、議員、市民を巻き込んだ協働による市政運営という形が見えてくる。市が行おうとする政策も、自然と市民を中心に据えた事業が多くなるのではないだろうか。

これまでの10年間の議員としての自分の経験を基にしながらも、語るべきは語り、議論すべきは議論していく、そうすることで市政発展につなげていくことが、市民の願いが叶うリーディングシティにつながると信じて今後の活動に取り組んでいく。

6 添付資料



防災機能が強化された新千葉市役所



千葉県知事 熊谷 俊人 氏



右から習志野市長、香取市長、四街道市長、栄町長



研修生集合写真